

本郷 図書だより

第120号 24.03.01

本郷公民館発行

図書委員会編集

電話 45-1500

◆◆図書委員会文化講演会◆◆

～浅間温泉よもやま話 パート十一～



二月十三日に開催されました。今回も始めに和菓子とお抹茶でおもてなしです。お抹茶をいただく機会がなかなかありませんが、ちっとも堅苦しくありません。椅子に座ったままで、お作法も気にせず楽しめます。

お茶の後は、講師で図書委員長の山本勝夫さんの講演の開始です。今回は源氏物語の和歌

日本書紀に松本地区の地名があること。たいまつ祭の昔の写真からその当時の思い出話。有名な芸者の市丸さんが浅間温泉にとてもゆかりのあること、浅間温泉で起こった水害、温泉についてなど。本日に幅広くお話下さいました。たいまつ祭は昔、三才山からも参加していて、とても大きなお祭りだったこと、昔は浅間温泉に沢山の小さなお湯屋があったことなど、浅間温泉の今昔にとても興味が湧きました。



ました。

参加された方からは、沢山の知らない昔の話を聞くことができ、面白かった。まだまだいろいろな話を聞きたいとの感想をいただくことが出来ました。

来場くださり、ありがとうございました。

新村扶美代 (図書委員)

お知らせ

令和六年夏

本郷村・松本市合併記念五〇年史が発行されます。

今年、昭和四九年(一九七四年)五月一日に本郷村が松本市と合併し新たに本郷地区としてスタートしてから、五〇周年という記念すべき節目の年を迎えます。

そこで、本郷地区町会連合会では、この五〇年間の主な出来



事を振り返り、本郷地区の優れた自然環境や伝統・文化、人々の営みを未来につなげる記念誌を夏に発刊します。

合併後に生まれた住民の割合が五二%を超え、原町会のようにに六五%近い町会もあります。地域のつながりや愛着の希薄化が危惧されています。記念誌から、身近な地域の良さを知っていただきたいと考えます。

執筆は住民の皆さん、歴史案内人のキャラクター、懐かしい写真が過去から現代、現代から未来へ住民の皆さんをご案内します。

なお、この記念誌は町会加入全世帯へ配布される予定です。
本郷公民館長 橋本真一

やまぼうし

《鶯のさへづる声はむかしに
てむつれし花のかげぞかはれ
る》(光源氏)



花の咲きそふ季節である。ま
ず蟬梅が飯田市から届き、次に
里山辺の留守宅を預かってい
るので、その庭の枝が部屋で匂

う。冒頭の和歌は「源氏物語」
の「乙女」の帖で光源氏が詠ん

だ歌だが、作者は勿論紫式部。
鶯のさえずる声は変わらない
が、それは若かりし日のことであ
ったという。

この小文を書いている今日は、バレンタインデーという。身近にありながらこの文字も声も、私には昔のことになった。小さな会社の経営者だった時、社屋前の私のロックしてなかった車の助手席にチョコレートが置かれていたことがある。贈り主は女子社員だろうが、今もつてその主はわからない。遠い日のことだが心の隅に残った。今年この日、掌に受けた小箱二つを併せて甘く少しにがいとときめきがよみかえる。

古い詩にある「年々歳々花相
似たり 歳々年々人同じから
ず」と。
山本勝夫 (図書委員長)

テラスの風

コロナの規制もなくなり、松
本城にもたくさんのお客の
姿が。にぎやかです。夜が明け
始めた静かな時間に松本城を
訪れます。お堀の水面にお城が
映り、綺麗な水鏡を見るのが好
きなのです。

新村扶美代 (図書委員)